日刊工業新聞

年月日	23	03	29	ページ	21	NO.	

SMFL

EVタンカーをリース

旭タンカーとSLL契約

三井住友ファイナンス&リース（SMFL）は、旭タンカー（東京都千代田区）向けに世界で2隻目となる次世代内航電気推進タンカー（EVタンカー）「あかり」をリース提供する。旭タンカーが保有・運航する外航船の二酸化炭素（CO_2）排出量削減実績に応じてリース料を変動させるサステナビリティ・リンク・リース（SLL）契約とする。EVタンカーのリース提供や内航船を対象としたSLLは、SMFLとして初となる。

あかりは全長62メートル×全幅10・3メートル×型深さ4・7メートル。総トン数は約499トン。容量3480キロワット時の大容量リチウムイオン二次電池から供給される電源でモーターを駆動させる電動タンカー。約12時間でフル充電する。

タンク容量は1280立方メートル。船舶燃料供給船として重油を積んで川崎港（川崎市川崎区）を拠点に東京湾内にいる外航船などに燃料を補給する。CO_2排出を抑え、エンジンの保守作業も軽減。騒音や振動も抑えられることから乗組員の労働環境や港湾周辺環境に配慮した運用ができる。

▲次世代内航電気推進タンカー「あかり」

旭タンカーは2022年に完成させた「あさひ」に続く内航電気推進タンカーの2番船として井村造船と「あかり」の建造契約を結んだ。SMFLは「あかり」を買い上げて旭タンカーにリースする。リース期間は10年。

SMFLは20年に海運のCO2削減を促す金融機関の国際的枠組み「ポセイドン原則」にリース会社として初めて参画した。21年には海運事業者向けのSLLを開始。ローンを含め今回の契約で8件目となる。環境配慮型船舶のリース事業を手がけるピュラス・マリーン（英領ケイマン諸島）に出資を決めるなど、海運業界の脱炭素化支援に向けた基盤を整備している。

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社